

令和3年度

青森県立高等学校入学者選抜学力検査の結果

学 校 教 育 課
総合学校教育センター

青森県教育委員会は、令和3年度青森県立高等学校入学者選抜学力検査を3月5日(金)に実施し、7,374人が受検した。

学力検査の実施教科、検査時間は、国語と英語が50分、数学、社会、理科が45分であり、配点は、各教科とも100点満点で、国語には16点、英語には27点の放送による検査問題が含まれている。

各教科の受検者全体の得点は、下の得点一覧表に示す結果となった。平均点を前年度と比較すると、国語が3.9点下回り、社会が3.8点、数学が1.5点、理科が0.2点、英語が4.7点上回った。

なお、学力検査問題は、中学校学習指導要領に示された各教科の内容から、「令和3年度青森県立高等学校入学者選抜学力検査問題作成方針」に基づいて出題されている。

以下、各教科ごとに、受検者の誤答傾向と問題別正答率について述べる。

得点一覧表

得点区分	国語		社会		数学		理科		英語	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
100	1	0.0	42	0.6	39	0.5	98	1.3	16	0.2
90～99	182	2.5	848	11.5	263	3.6	978	13.3	879	11.9
80～89	1,245	16.9	1,516	20.6	792	10.7	1,196	16.2	1,212	16.4
70～79	2,129	28.9	1,484	20.1	1,121	15.2	1,247	16.9	1,068	14.5
60～69	1,796	24.4	1,195	16.2	1,254	17.0	1,070	14.5	1,053	14.3
50～59	1,121	15.2	948	12.9	1,191	16.2	945	12.8	1,032	14.0
40～49	565	7.7	676	9.2	1,038	14.1	794	10.8	978	13.3
30～39	213	2.9	350	4.7	771	10.5	509	6.9	677	9.2
20～29	88	1.2	187	2.5	461	6.3	290	3.9	325	4.4
10～19	28	0.4	110	1.5	313	4.2	178	2.4	119	1.6
0～9	4	0.1	16	0.2	129	1.7	67	0.9	13	0.2
0(再掲)	0	0.0	1	0.0	4	0.1	0	0.0	0	0.0
全教科受検者数	7,372	100.0	7,372	100.0	7,372	100.0	7,372	100.0	7,372	100.0
平均点	66.8		67.8		56.2		65.0		63.4	
標準偏差	14.4		19.3		21.3		22.1		21.2	
最高点	100		100		100		100		100	
最低点	6		0		0		1		3	
前年度平均点	70.7		64.0		54.7		64.8		58.7	

* 得点一覧表の各教科の値(%)は、全教科受検者に占める得点区分ごとの受検者の割合を表したものである。小数第2位を四捨五入しているため、人数が0人でなくても0.0%になる場合や合計が100%にならない場合がある。

国 語

①の放送による検査は、委員会活動についての生徒の発表を、資料を見ながら聞き、内容や発表の仕方を捉える力、資料に即して適切に表現する力をみる問題である。(1)は、「委員会活動の取り組み」について聞き取る問題であり、正答率は約8割であった。(2)は、「花壇整備の目的」について聞き取る問題であり、正答率は約9割であった。(3)は、「おはよう」を使って標語を書く問題であり、正答率は約9割であった。(4)は、発表の仕方について聞き取る問題であり、正答率は約7割であった。発表全体の内容を踏まえていないために減点されているものが多かった。話の中心部分と付加的な部分を考えて、要点を整理しながら聞き取る力を高める必要がある。

②は、漢字の問題である。(1)の読字の正答率は約8割であり、誤答として、ウ「ちゅうぞう」を「ちょうぞう」、「じゅうぞう」などと読んだものが多かった。書字の正答率は約6割であり、誤答として、ク「穀倉」を「穀層」、「穀蔵」などと書いたものが多かった。(2)は、文の中で用いられている漢字と同じ漢字が使われている熟語を選ぶ問題であり、正答率は9割を上回った。文脈に合わせて正確に意味を判断し、適切な漢字を用いる力を養うとともに、語彙を増やすことが大切である。

③は、『枕草子(まくらのそうし)』からの出題である。(1)は、歴史的仮名遣いを読む力をみる問題であり、正答率は約9割であった。基礎的・基本的な学習内容の定着がうかがえる。(2)は、文脈に即して主語の組み合わせを選ぶ問題である。本文中の「よむ」の主語を「陰陽師」ではなく「作者」とする「4」を選んだ誤答が多く、正答率は約7割であった。(3)は、文章の展開に即して内容をまとめる問題である。「さつと立ち走って」、「酒や水を振りかける」という具体的な内容が不足しているために減点されているものが多く、正答率は約1割であった。条件に即して適切に表現する力を育成することが一層求められる。

④は、今野真二(こんの しんじ)の『『広辞苑』をよむ』からの出題である。(1)は、動作の目的を表す格助詞「に」について同じものを選ぶ問題であるが、形容動詞の一部の「に」である「2」を選んだ誤答が多く、正答率は約5割であった。(2)は、文章の内容を捉え、「辞書で調べる」ことについてまとめる問題であり、『『実用的』ということから離れて』という内容が不足しているために減点されているものが多く、正答率は約6割であった。(3)は、文章の展開に即して内容を捉え、『『よむ』という言語活動』の特徴として適切でないものを選ぶ問題であり、正答率は約7割であった。(4)は、文章の展開に即して内容を捉え、空欄に適する語句を抜き出す問題であり、正答率はAが約9割、Bが約7割であった。(5)は、文章の展開に即して内容を捉え、「照らし合わせ」についてまとめる問題である。「自身の使い方と他者の使い方」という具体的な内容が不足しているために減点されているものや、文章全体の内容を踏まえていないものが多く、正答率は約1割であった。文章に表れているものの見方や考え方について、書き手の論理の展開に即して適切に読み取る力を伸ばしていくことが重要である。

⑤は、川端裕人(かわばた ひろと)の『風に乗って、跳べ 太陽ときみの声』からの出題である。(1)は、動詞の活用の種類についての理解をみる問題であり、「2」の「差し込む」を選んだ誤答が多く、正答率は約4割であった。(2)は、文章の展開に即して内容を捉え、空欄に適する語句を抜き出す問題であり、正答率は約6割であった。(3)は、文脈の中における語の意味を捉え、空欄に適する語句を選ぶ問題であり、正答率は約7割であった。(4)は、文章の展開に即して内容を捉え、『『華』が『心象風景』だと思った理由』

についてまとめる問題であり、正答率はAが約5割、Bが約6割であった。Aは、「面倒くさい」、「向いてない」など空欄に適さない五字を抜き出している誤答が多かった。Bは、文脈に合わせて適切にまとめていないために減点されているものが多かった。(5)は、文章の内容を捉えて、「児童公園で泣いている子を見つけたあとの『華』」についてまとめる問題であり、正答率は約2割であった。「子どもたちにはっきり気づかないようにした」、「卑怯な様子」など、必要な情報が不足しているために減点されているものが多かった。(6)は、文章の表現の効果について捉える問題であり、正答率は約8割であった。文章の構成や展開、表現の仕方について考えながら文章を読むことが大切である。

〔6〕は、二つの名言から読み取った内容をもとに、意見文を書く問題である。「トルストイ」と「アインシュタイン」の名言が示す「生き方」の違いについて気付いたことを書いた上で、それを踏まえて自分の意見を書くという条件に即して論理的に書く力が求められるが、どちらか一方の名言のみに着目して書いたり、名言から読み取った内容のみを書き、意見の提示が不十分であったりしたために減点されているものが多かった。資料や文章に対する自分の考えを書く場合は、読み取った内容と自分の意見を整理してまとめることが大切である。

国語では、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、文章の構成や展開、表現の仕方に注意して内容を正確に捉える力や、条件に即して適切に表現する力を育成することが望まれる。

問題別正答率 国語

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)														
〔1〕	(1)	4	放送資料を聞き取る。話の内容を的確に聞き取る。	84.1	〔4〕	(1)	4	説明的文章を読む。品詞について理解する。	48.7												
	(2)	4		(2)		4	文章の展開に即して内容を捉える。		62.7												
	(3)	4		(3)		4	文章の展開に即して内容を捉える。		65.3												
	(4)	4		(4)		2	文章の展開に即して内容を捉える。		85.7												
〔2〕	(1)	読 常用漢字を読む。	丹精	90.3	〔5〕	A 2	B 2	文学的文章を読む。文章の展開に即して内容を捉える。	72.6												
			網羅	92.5					(5)	6	文章に表れているものの見方や考え方を捉えてまとめる。	12.2									
			鑄造	27.8								(1)	4	品詞について理解する。	39.7						
			促す	81.9											(2)	4	文章の展開に即して内容を捉える。	56.4			
			詣でる	88.2														(3)	4	文脈の中における語の意味を捉える。	72.2
			書 学年別漢字配当表の漢字を書く。	順序																	76.4
	簡潔	63.3		(5)	6	文章に表れているものの見方や考え方を捉えてまとめる。	17.4														
	穀倉	38.8					(6)	4	文章の展開に即して内容を捉える。	83.0											
	臨む	55.4								〔6〕	10	意見文を書く。言葉を的確に捉え、表現を工夫しながら自分の考えを書く。	平均点 6.8								
	音	47.7																			
	(2)	漢字の知識 文の中で用いられている漢字と同じ漢字が使われている熟語を選ぶ。											欠	98.3							
			事項										99.2								
〔3〕	古文を読む	歴史的仮名遣いについて理解する。	87.7																		
		文脈の中における主語に当たる人物を捉える。	68.8																		
		文章の展開に即して内容を捉えてまとめる。	14.6																		

社 会

①は、地図の活用や北アメリカ州の地域的特色に関する問題である。(1)イは、略地図中に示された場所の緯度と経度の組み合わせを選ぶ問題で、正答率は約7割であった。誤答としては、「4 南緯と東経」が多かった。(3)ウは、カナダ、アメリカ、メキシコの貿易相手国を表した資料を参考に、この3か国の関係について適切に表現する力をみる問題である。正答率は約7割で、カナダ、アメリカ、メキシコが経済の面で強く結び付いていることを適切に表現しているものが多かった。地図や資料を活用する地理的技能を身に付けるとともに、地域的特色を様々な視点から捉えることが大切である。

②は、近畿地方の自然環境、伝統的工芸品及び産業に関する問題である。(1)イは、対馬海流についての理解をみる問題で、正答率は約8割であった。(4)は、兵庫県の工業、農業、畜産業の生産額及び国宝・重要文化財指定件数について、資料を参考にして思考・判断する問題で、正答率は約6割であった。地域的特色を人々の生活や産業などと関連付けて捉えることが大切である。

③は、古墳時代から江戸時代に起こった出来事に関する問題である。(4)は、明と室町幕府の関係について適切に表現する力をみる問題で、正答率は約1割であった。古代から近代にかけての東アジアの国際関係についての理解が十分ではなかったと思われる。(5)は、江戸幕府が行ったことを年代の古い順に並べかえる問題で、正答率は約5割であった。江戸時代の政治の移り変わりについての理解が十分ではなかったと思われる。各時代の歴史的特色を世界の動きとの関連に着目して、政治、外交、社会、文化など多面的な視点から捉えることが大切である。

④は、近代から現代までの日本の政治や経済、国際関係に関する問題である。(3)イは、世界恐慌が起こった後の出来事として適切でないものを選ぶ問題で、正答率は約4割であった。誤答としては、「3 関東軍が柳条湖事件を起こした」が多かった。近代の日本の歴史的な事象が起こった原因・結果、時間的な流れ等の理解が十分ではなかったと思われる。(6)は、資料を参考に農地改革の内容について適切に表現する力をみる問題で、正答率は約4割であった。誤答としては、「政府が小作人から土地を買い上げた」という内容のものが多く、近代の農村における土地所有関係についての理解が十分ではなかったと思われる。近代、現代については、統計資料などを活用した基礎的・基本的な学習内容の定着がより一層求められる。

⑤は、国会の種類や役割、国会の地位に関する問題である。(2)は、国会の種類についての理解をみる問題で、正答率は約7割であった。(6)は、国会が、国の政治の中心的な地位を占める理由について適切に表現する問題で、正答率は約4割であった。国会が国権の最高機関であり、主権者である国民に直接選ばれた国会議員によって構成されていることについての理解が十分ではなかったと思われる。国民主権を担う公民として、国会を中心とする民主政治の仕組みや議会制民主主義、選挙の意義について理解を深めていくことが求められる。

⑥は、企業の活動や景気変動、流通経路に関する問題である。(1)は、企業の生産活動の目的についての理解をみる問題で、正答率は約7割であった。(3)イは、証券取引所についての理解をみる問題で、正答率は約5割であった。誤答としては、「市場」や「発券銀行」、「公正取引委員会」が見られ、市場経済や金融などの仕組みについての理解が十分ではなかったと思われる。(5)は、野菜の流通経路を表した資料から必要な情報を読み取り、流通の合理化について知識と関連付けて適切に思考・判断し、表現する力をみる問題

で、正答率は約5割であった。誤答としては、「生産者が大規模小売業者に直接届けたから」という内容のものが多く、大規模小売業者が、流通の合理化を図ることで流通費用を削減しようとしていることを思考・判断することができなかったものと思われる。経済活動が私たちの社会生活のあらゆる面で密接な関わりをもっていることを、具体的な事例を踏まえて理解することが大切である。

7は、ノーベル平和賞受賞者・受賞団体についてまとめた資料から、受賞者・受賞団体に関連する社会的事象に関する地理、歴史、公民の各分野の知識・理解を総合的にみる問題である。(1)は、佐藤栄作について述べた文として適切なものを選ぶ問題で、正答率は約5割であった。戦後の日本が国際社会に復帰するまでの時間的な流れについての理解が十分ではなかったと思われる。(2)は、PKOについての理解をみる問題で、正答率は約6割であった。誤答としては、「ODA」や「NGO」が多く、世界の平和と安全を維持するという国際連合の役割についての理解が十分ではなかったと思われる。

社会では、基礎的・基本的な知識の定着を図るとともに、問われている内容を正しく理解した上で、資料から必要な情報を読み取る力、知識や資料を関連付けて、思考・判断したことを適切に表現する力を育成することが望まれる。

問題別正答率 社会

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)										
1	(1)	ア	2	4	(1)	2	明治時代の綿糸の生産と貿易の変化	57.9									
		イ	2			(2)	2	ポーツマス条約	72.6								
	(2)	3	ア			2	(3)	2	ニューディール政策(新規まき直し)	82.9							
	(3)	ア	2			イ	2	(4)	2	世界恐慌が起こった後の出来事	40.0						
		イ	2			(4)	2	八幡製鉄所	73.8								
		ウ	3			(5)	2	戦後の民主化	68.3								
2	(1)	ア	2	(6)	3	農地改革	42.8										
		イ	2	(1)	2	衆議院の優越	87.5										
	ウ	2	(2)	2	国会の種類	65.1											
	(2)	3	(3)	2	法律の成立	74.0											
	(3)	A	2	(4)	3	比例代表制	77.2										
		B	2	(5)	2	内閣総理大臣の指名	85.3										
(4)	3	(6)	3	国会の地位	35.1												
3	(1)	ア	2	6	(1)	2	私たちの	利潤	72.8								
		イ	2			(2)	2	消費者庁	68.6								
	(2)	ア	2			ア	3	経	株式会社の仕組み	65.1							
		イ	2				イ	2	済	証券取引所	47.7						
	(3)	2	(4)			2	暮	好景気の時期における、経済の一般的な傾向	79.8								
	(4)	3	(5)			3	ら	流通の合理化	52.1								
(5)	2	(6)	2	し	と	佐藤栄作	53.6										
(6)	2	古墳	94.7	7	(1)	3	受ノ	PKO	63.9								
4	(1)	緯度と経度	70.4			イ	(2)	2	賞者	教育を受ける権利	81.5						
		中国の輸出品	58.2					問題	(3)	2	に	ヤンゴンが属する気候帯	81.9				
		環太平洋造山帯	86.3							和	(4)	2	賞	南アフリカ共和国	59.3		
		ヒスパニックの言語	77.6									ず	(5)	3			
		カナダ、アメリカ、メキシコの関係	74.5														
		リアス海岸	88.9														
対馬海流	77.2																
吉野すぎ	65.7																
天橋立が位置する府県	56.8																
堺市	46.2																
伝統的工芸品	78.7																
兵庫県の産業生産額と国宝・重要文化財の指定件数	59.4																
5	(1)	古墳	94.7														
		撰閣政治のころの仏教	58.6														
	藤原道長	75.2															
	金閣	95.9															
	明と室町幕府の関係	9.3															
	江戸幕府が行った出来事の並べかえ	45.8															
参勤交代	93.6																

数 学

①は、基礎的・基本的な知識や技能をみる問題である。(1)の正答率は約8割であり、数と式についての基本的な計算に対する知識・技能は定着していると思われる。(2)は、目的に応じて式を変形する問題であり、正答率は約8割であった。等式の性質を利用した変形を適切にできなかつたと思われる誤答が見られた。(3)は、二次方程式を解く問題であり、正答率は約5割であった。両辺を x で割って求めたと思われる誤答「9」や、 $x^2 = 9$ として求めたと思われる誤答「 ± 3 」が多かつた。(4)は、比例関係から y の値を求める問題であり、正答率は約8割であった。符号をつけ忘れたと思われる誤答「3」が多かつた。(5)は、正 n 角形の内角の一つの大きさから n の値を求める問題であり、正答率は約6割であった。多角形における外角の和が 360° であることを適切に利用できなかつたものと思われ、誤答は多岐にわたり、無解答も多かつた。(6)は、空間内の平面について述べた文として適切でないものを選ぶ問題であり、正答率は約3割であった。空間内にある平面の決定条件を適切に理解できていないものと思われる。(7)は、偶数個の値を小さい順に並べたときの、代表値である中央値についての理解をみる問題であり、正答率は約5割であった。問題文に示されている中央値 48.0 回から回数の差の6回を引いて求めたと思われる誤答「42回」や無解答が多かつた。(8)は、円の中心の座標を円周角の定理等を用いて求める問題で、正答率は約1割であった。点 B の x 座標を正確に把握することができなかつたものと思われる。

②は、数と式や確率についての知識や技能を用いて思考・判断し、数学的に処理する力をみる問題である。(1)は、会話文を読み取り、適切な式や語、自然数を答える問題であり、正答率はアが約9割、イが約8割、ウ～オがそれぞれ約7割であった。誤答としては、会話文を正しく読み取れていないと思われるものが多かつた。(2)アは、二つの袋からそれぞれ玉を1個取り出すときにどちらも白玉になる確率を求める問題で、正答率は約7割であった。(2)イは、二つの袋から玉を取り出すときの最も起こりやすい組み合わせを求める問題であり、正答率は約4割であった。ア、イどちらの問題においても、樹形図を用いて、取り出す玉の組み合わせをすべて求めていないものと思われ、誤答は多岐にわたつた。

③は、図形について、道筋や見通しを立てて思考・判断し、表現する力をみる問題である。(1)アは、三角錐の体積を求める問題であり、正答率は約5割であった。PQFの面積を正しく求められなかつたと思われる誤答「 18cm^3 」や無解答が多かつた。(1)イは、2点間の最短距離を求める問題であり、正答率は約3割であった。立方体を展開図にし、点P、Rの位置関係から三平方の定理を利用して糸の長さを求めることができなかつたものと思われ、誤答は多岐にわたり、無解答も多かつた。(2)アは、1組の三角形が合同であることを証明する問題であり、正答率はあが約5割、いが約6割、うが約7割であった。1組の合同な三角形を証明する上で、仮定をもとに対応する辺や角を正確に捉えることができなかつたと思われる誤答が多かつた。(2)イの(ア)は、辺の長さを文字を用いて表す問題であり、正答率は約3割であった。与えられた条件を図と対応させることができなかつたものと思われ、無解答が多かつた。(2)イの(イ)は、(ア)の証明で合同であることが明らかになった1組の三角形を用いて、1辺の長さを求める問題であり、正答率は約2割であった。複数ある条件を正しく組み合わせ、式で表すことができなかつたと思われる誤答や無解答が多かつた。図形がもつ性質を多面的に捉えようとする力を育成することが一層求められる。

4は、関数や図形についての知識や技能を用いて思考・判断し、数学的に処理する力をみる問題である。(1)は、点Bのx座標を求める問題で、正答率は約5割であった。x座標が負であることに気付かなかったと思われる誤答「3」が多かった。(2)は、変化の割合を求める問題であり、正答率は約6割であった。変化の割合の意味を正しく理解できていないと思われる誤答が多かった。(3)は、ABPが二等辺三角形になるときの点Pの座標を求める問題であり、正答率は2割を下回った。求める座標のx座標が正の位置にあることを理解していないと思われる誤答や無解答が多かった。(4)は、四角形OBCAの面積を二等分する直線の式を求める問題であり、正答率は1割を下回った。四角形OBCAを二つの三角形に分割して考えることや、等積変形の考え方を利用してOABと面積が等しい三角形を捉えることができなかつたものと思われ、無解答が多かった。

5は、問題文から必要な情報を読み取り、グラフを対応させることで速さや時間、距離の関係性を求めたり、異なる条件で移動する人の様子をグラフで表現したりすることで数学的な見方や考え方を働かせ、事象を数学的に処理し、解決する力をみる問題である。(1)は、グラフから読み取ることのできる値を求める問題であり、正答率はあが約9割、いが約8割、うが約7割であった。問いの内容とグラフから読み取った情報を対応させ、値を求めることができているものと思われる。(2)アは、異なる条件で移動する人の様子をグラフで表現する問題であり、正答率は約5割であった。移動する速さを傾きとして適切にグラフに表現することができなかつたと思われる誤答が多かった。(2)イは、2人の距離が最も離れているときの時刻と距離を求める問題であり、正答率は約4割であった。グラフから2人の位置関係を正しく読み取ることができなかつたと思われる誤答や無解答が多かった。(3)は、2人が同時に博物館に到着するために兄が自宅を出発する時刻を求める問題であり、正答率は約3割であった。2人の出発時刻と到着時刻の関係性を正確に捉え、解決方法を見いだすことができなかつたものと思われ、誤答は多岐にわたり、無解答も多かつた。グラフから必要な情報を読み取り、思考・判断し、表現することで日常生活の中で数学を活用する力を伸ばしていくことが重要である。

数学では、基礎的・基本的な知識の定着を図るとともに、数や式を形式的に処理するだけではなく、数量や関数、図形などに関して基礎となる原理や法則について理解を深め、筋道を立てて思考・判断・表現する力を育成することが望まれる。

問題別正答率 数 学

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	
1	(1)	ア	3	数と式	3	正負の整数の計算(加法減法)	97.9	
		イ	3			正負の整数の四則計算	94.0	
		ウ	3			単項式の計算(乗法除法)	76.8	
		エ	3			多項式の計算	66.1	
		オ	3			式の展開	77.9	
	(2)	4	等式変形	75.2				
	(3)	4	二次方程式	54.7				
	(4)	4	関数	79.1				
	(5)	4	図形	56.9				
	(6)	4		正多角形	28.3			
	(7)	4		平面の決定	46.3			
	(7)	4	資料の活用	46.3				
(8)	4	図形	12.7					
2	(1)	ア	2	数と式	2	数の性質	92.2	
		イ	2				78.0	
		ウ	3				66.7	
		エ	3					
		オ	3					
	(2)	2	資料の活用	65.1				
	(2)	4	確率	43.6				
	3	(1)	ア	2	図形	2	三角錐の体積	50.5
			イ	3			最短距離	34.9
			ウ	2			52.5	
			エ	2			58.8	
			オ	2			66.8	
(2)		2	三角形の合同の証明	66.8				
(2)		2	辺の長さ	32.3				
(2)		3	19.2					
(4)		(1)	2	関数	x座標	52.5		
		(2)	2		変化の割合	59.2		
		(3)	3		三平方の定理	19.6		
		(4)	4		四角形の面積を二等分する直線の式	7.6		
5	(1)	ア	2	関数	2	1次関数の利用	85.8	
		イ	2				84.5	
		ウ	2				66.2	
	(2)	ア	3				46.9	
		イ	4				38.4	
		ウ	4				31.7	

理 科

①は、生物・地学分野の小問集合である。(1)アは、精細胞が運ばれていくつくりである花粉管の名称を選ぶ問題、(1)イは、有性生殖についての理解をみる問題で、いずれも正答率は約9割であった。(2)は、植物の蒸散について、二つの条件下にある植物の反応が異なる理由を記述する問題で、正答率は約7割であった。(3)アは、風向・風力・天気に関する問題で、正答率は約9割、(3)イは、水蒸気量を求める問題で、正答率は約4割であった。湿度表の80という値を15.4で割って「5.2g」としたものなど、誤答は多岐にわたり、無解答も多かった。(4)アは、地平線に沈む太陽の位置と時刻に関する問題で、正答率は約6割であった。(4)イは、季節の変化に関する問題で、正答率は約6割であった。「公転している」とだけ記述しているものが多く、地軸が傾いていることと季節の変化を関連付けて捉えることができなかつたものと思われる。生物や地学的現象についての基礎的な知識は概ね身に付いていると思われるが、これらを基に科学的な見方や考え方を養っていく必要がある。

②は、化学・物理分野の小問集合である。(1)アは、蒸留についての理解をみる問題で、正答率は約8割、(1)イは、試験管Aの液体がよく燃えた理由を記述する問題で、正答率は約5割であった。Aの液体に含まれる物質の量に着目していないものや、酸素が発生したことで燃えたとする誤答が見られた。(2)アは、硫化鉄の化学式を記述する問題で、正答率は約8割であったが、(2)イの鉄と硫黄の混合物を過不足なく反応させるために加える物質の名称と質量を問う問題では、約5割であり、「硫黄、1.5g」としたものなど誤答は多岐にわたった。反応する物質の質量の比が一定であることを見いだして鉄と硫黄の化合する質量の関係を適切に処理することができなかつたものと思われる。(3)アは、真空放電についての理解をみる問題で、正答率が約4割であった。「電磁誘導」とした誤答が多く、クルックス管内の現象を理解できていなかったものと思われる。(3)イの陰極線と電子に関する問題では正答率が約6割であり、電流の流れる向き、電極および電子の性質と関連付けて捉えることができなかつたものと思われる。(4)アは、運動エネルギーと位置エネルギーが最も大きい位置を問う問題で、正答率は約8割、(4)イは、2点間の位置エネルギーの比を計算する問題で、正答率が約7割であった。化学や物理的現象についての基礎的な知識は概ね身に付いていると思われるが、科学的な見方や考え方、結果を分析して解釈する力を養っていく必要がある。

③は、脊椎動物の分類に関する問題である。(1)は魚類、(2)は胎生、(3)は恒温動物についての理解をみる問題で、正答率は(1)が約8割、(2)と(3)が約9割であった。(4)は、からだの表面がうろこでおおわれている動物が書かれているカードを二つ選ぶ問題で、正答率は約7割であった。(5)は、Bのカードに書かれている動物の特徴に関する問題で、正答率は約9割であった。(6)は、C、Eに書かれているカードと同じなかまに分類される動物を選ぶ問題で、正答率は約5割であった。誤答としては「5」が多く、イモリが両生類であることを理解できていなかったものと思われる。

④は、塩化銅の電気分解に関する問題である。(1)は、塩化銅の電離の様子をイオン式を使って表す問題で、正答率は約6割であり、「Cu⁺」とした誤答が多かった。(2)は、水溶液中の溶質である塩化銅の質量を求める問題で、正答率は約3割であった。小数点の位置を間違えて「64.8g」としたものや、密度の数値を計算に含めず「6g」としたものなど、誤答は多岐にわたり、無解答も多かった。(3)は、塩素の性質を選ぶ問題であり、正答率は9割を上回った。(4)は、一定時間電流を流したときの水溶液中の銅イオンの数

の変化を表したグラフをもとに、塩化物イオンの数の変化をグラフで表現する問題で、正答率は約1割であった。誤答は多岐にわたり、いずれも塩化物イオンが変化する割合を正しく表現できておらず、無解答も多かった。(5)は、銅と塩素の原子の質量比をもとに、一定時間電流を流したときに発生した塩素の質量を求める問題で、正答率は約3割であった。「0.33g」とした誤答が多く、塩素が分子で存在していることを理解できていなかったものと思われる。

5は、圧力の実験に関する問題である。(1)アは、垂直抗力についての理解をみる問題で、正答率は約6割であった。(1)イは、スポンジのへこみ方を選ぶ問題で、正答率は約9割であった。(1)ウは、圧力を求める問題で、正解率は約4割であった。面Bの面積 15cm^2 を 0.15m^2 として算出した「36Pa」や、力と面積の積で算出した「8.1Pa」とした誤答が多く、無解答も見られた。(2)アは、直方体にはたらく浮力を求める問題で、正答率は約6割であり、無解答が多かった。(2)イは、直方体の下にする面を変えて同じ深さまで沈めたときにはたらく浮力の大きさの大小関係を問う問題で、正答率は約6割であり、誤答は「6」を選んだものが多かった。同じ深さでは直方体の下面にかかる水圧が同じであることと、それぞれの下面の面積が異なることから、下面にはたらく力が変化することを見だし、浮力の大きさの大小関係について思考・判断する力が求められる。

6は、地層の重なりに関する問題である。(1)は、石灰岩の識別に関する問題で、正答率は約9割であった。(2)は、火山活動があったと考えられる理由を記述する問題で、正答率は約7割であり、「火山灰があるから」とした誤答が多かった。(3)は、示準化石とその特徴についての問題で、正答率は約6割であった。「示相化石」とした誤答や、「1 長い期間にわたって栄えた」、「4 せまい範囲にすんでいた」という特徴を選んだ誤答が多かった。(4)アは、標高を求める問題で、正答率は6割であり、地点Aよりも2m高い「67m」とした誤答が多く、無解答も見られた。(4)イは、柱状図をかく問題で、正答率は約6割であった。層順が異なる誤答や、かぎ層がない誤答が多かった。

理科では、観察、実験の内容や結果を正確に読み取って考察する力や、グラフや表から得られた複数の情報を目的に応じて整理し活用する力に加え、科学的に思考・判断し、その過程を含め、適切に表現する力を育成することが望まれる。

問題別正答率 理科

問題番号	配点	問題の内容		正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容		正答率 (%)				
1	(1)	ア	2	被子植物の受精	花粉管	94.2	4	塩化銅の電気分解	(1)	3	イオン式	59.2	
		イ	3	有性生殖	90.2	(2)			3	溶解している塩化銅の質量の計算	30.7		
	(2)	ア	3	植物の蒸散	植物の蒸散	68.0			(3)	2	塩素の性質	94.2	
		イ	3	気象観測	風向・風力・天気 水蒸気量	91.7 42.8			(4)	3	水溶液中のイオンの数	14.9	
	(4)	ア	2	季節の変化	地平線に沈む太陽の位置と時刻	56.0			(5)	4	発生した塩素の質量	26.4	
		イ	3	季節の変化	季節の変化	57.0	5	圧力	ア	3	垂直抗力	63.7	
	2	(1)	ア	2	水とエタノールの混合物の蒸留	蒸留			79.3	イ	3	スポンジのへこみ方	88.6
			イ	3	水とエタノールの沸点の違い	54.3			ウ	3	圧力	43.8	
(2)		ア	2	鉄と硫黄の化合	硫化鉄の化学式	78.4			(2)	ア	3	浮力	61.8
		イ	3	鉄と硫黄の化合	質量変化の規則性	48.5	イ	3		同じ深さでの浮力の大小関係	55.3		
3	(3)	ア	2	クルックス管における陰極線と電子	真空放電	39.0	6	地層の重なり	(1)	3	石灰岩の識別	89.4	
		イ	3	力学的エネルギーの保存	運動エネルギーと位置エネルギー 2点間の位置エネルギーの比	82.3 74.4			(2)	3	火山活動と凝灰岩	65.4	
	(4)	ア	2	力学的エネルギーの保存	運動エネルギーと位置エネルギー 2点間の位置エネルギーの比	82.3 74.4			(3)	3	示準化石	55.3	
		イ	3	力学的エネルギーの保存	運動エネルギーと位置エネルギー 2点間の位置エネルギーの比	82.3 74.4			ア	3	標高	60.0	
3	(1)	3	脊椎動物の仲間	魚類	82.1	イ	3	柱状図	56.0				
	(2)	3		胎生	86.3								
	(3)	3		恒温動物	90.8								
	(4)	2		からだの表面の特徴	66.9								
	(5)	3		カエルの特徴	85.5								
	(6)	3		脊椎動物の分類	47.1								

英 語

①は、放送による問題である。(1)は、英語の説明と質問を聞いて適切な絵や表現を選ぶ問題で、アの正答率は9割を上回り、イ、ウの正答率はそれぞれ約9割であった。(2)は、自転車に関するスピーチを聞いて質問に答える問題で、アの正答率は9割を上回り、イ、ウの正答率はそれぞれ約9割であった。(3)は、友人同士の対話を聞き取り、質問に対して適切に応じる問題で、アの正答率は9割を上回り、イの正答率は約8割であった。(4)は、外国語指導助手の話と質問を聞き取り、自分のことについて英語で答える問題である。誤答としては、「話の内容」ではなく「話の相手」について述べられている文や、「I talking about sports.」のように文法の理解が不十分なものが見られたが、無解答は少なかった。問いの内容を正しく理解した上で、適切に英語で表現する力を高めていく必要があると思われる。

②は、アメリカのレストランでの、接客係と日本人留学生の対話を題材とした問題である。(1)は、英文の意味が通るように、与えられた語を並べかえる問題であり、アの正答率は約8割、イ、ウの正答率はそれぞれ約5割であった。アは、疑問詞を含む疑問文を作る問題である。「～はどちらですか」とたずねる場合、「Which + be 動詞 + 主語？」の語順になるが、「Which」の後に be 動詞以外の語を用いた誤答が多かった。イは、形容詞の比較級を含む英文の問題である。「delicious」のような長い単語の場合、比較級は「more + 形容詞」となるが、その語順が定着していないと思われる誤答が多かった。ウは、熟語の「look forward to ~」を含む英文の問題である。「looking」のすぐ後に前置詞の「to」を用いるなどの品詞や文法の理解が十分ではないと思われる誤答が多かった。(2)は、対話の流れから「from」を空所に入れる問題である。「in」「know」「like」などの誤答が多く、正答率は約6割であった。(3)は、日本の文化について紹介する文を英語で書く問題であり、日本の祭りや食べ物について書かれたものが多かった。文化の説明が十分でないもの、根拠を伴っていないもの、論理的に成立していないものなどが見られた。聞き手や読み手の状況を意識しながら、内容の正しさや文と文の意味のつながりに配慮して英語で表現する活動を継続して行っていくことが大切である。

③は、日本を訪れている外国人の高校生と父親の電話での応答を題材とした問題である。(1)は、応答が成立するように英文を書く問題であり、アの正答率は約1割、イ、ウの正答率はそれぞれ約3割であった。アは、「It took twelve hours.」に呼応する「How long ~」で始まる疑問文を書かなくてはならないが、「What time ~」を用いた誤答が多かった。イは、「How did you change it?」に呼応する「I changed it.」を書く問題であるが、無解答が多かった。対話が成立するための内容を考えて、それを英文で表すことが難しかったものと思われる。ウは、「They said ~」が答えとなる疑問文を書く問題である。疑問詞「What ~」で英文が始められ、その後の動詞の時制や代名詞の用法に誤りのあるものが多かった。(2)は、電話での応答が成立するように最も適切な英文を選ぶ問題である。Aの正答率は約4割、Bの正答率は約5割であった。対話の前半で話された内容と一致しない選択肢や、直前の文と内容がつながらない選択肢を選んだ誤答が多かった。対話の内容を理解し、その内容や意味のつながりに即した表現ができるように、聞いたことについて話したり、読んだことについて書いたりするような、技能統合的な課題に繰り返し取り組んでいくことが求められる。

4は、外国語指導助手が中学生に話した内容を題材とした問題である。(1)は、話の内容と合うように、適切な数字や日本語を書く問題である。正答率は、アが9割を上回り、イは約5割、ウは約7割であった。(2)は、英語による質問に英語で答える問題である。1、2の正答率はそれぞれ約6割、3の正答率は約4割であった。1は、「I」や「He」などの別の主語を用いた誤答が多く、2は、冠詞や前置詞などの語がないために減点されたものが多かった。3は、質問の内容を正確に把握できなかったために反対の内容を答えた誤答が多かった。(3)は、日本語を英語で書く問題である。正答率は、1が約4割、2が約1割であった。2では、使用する動詞の誤りや、間接目的語(people)と直接目的語(wonderful things)を含む文構造についての理解が十分ではないと思われる誤答が多かった。基本的な文法事項を適切に組み合わせて表現する力を育てていくことが大切である。

5は、高校生が祖父や少女とのやりとりを通して、祖父のように学び続けたいと思った、という内容を題材とした問題である。(1)は、本文の内容と合うように英文を完成させる問題である。正答率は、アが約5割、イ、ウがそれぞれ約7割、エが約6割であった。代名詞が示す内容の取り違えや、解答の根拠になる文の認識に誤りがあったものと思われる誤答が多かった。(2)は、本文の内容と合うように適切な語を選び、英文の要約を完成させる問題である。ア、イの正答率はそれぞれ約8割であり、ウは約6割であった。本文全体から話の流れを捉えて、本文以外の英語も用いながら要約する力が求められる。(3)は、下線部が表している内容を日本語で具体的に書く問題である。正答率は1割を下回り、無解答が多かった。下線部「another important thing」の指す内容が同じ段落になかったことに加えて、二つの大切なことのどちらを指しているかを理解することが困難だったと思われる。段落の構成やつながりを意識して、英文を読み進めていく力を養成することが求められる。

英語では、基礎的・基本的な知識の定着を図るとともに、英文の内容や要点を正確に理解する力や、文構造を理解した上で状況に合わせて適切に表現する力を育成することが望まれる。

問題別正答率 英語

問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)	問題番号	配点	問題の内容	正答率 (%)
1	ア 3 イ 3 ウ 3	英文と質問を聞いて、答えとして適切なものを選ぶ。	99.6	4	ア 2 イ 2 ウ 2	話の内容と合うように、適切な日本語や数字を書く。	97.9
			87.9				51.1
			88.6				70.7
	ア 3 イ 3 ウ 3	英文を聞いた後で、その内容についての質問に対する適切な答えを選ぶ。	96.1		1 3	62.4	
			84.9		2 3	56.1	
			86.5		3 3	39.7	
	ア 3 イ 3	対話を聞いた後で、その内容についての質問に対する適切な答えを選ぶ。	95.0		1 3	36.3	
			82.7		2 3	11.3	
	ウ 3	英文を聞いた後で、質問に対する自分の答えを英語で書く。	平均点 1.9				
	2	ア 2 イ 2 ウ 2	意味が通るように語を並べかえて、比較表現の最上級を含んだ英文を完成させる。		75.8	5	ア 3 イ 3 ウ 3
48.1				65.0			
52.7				67.6			
ア 2		意味が通るように語を並べかえて、比較表現を含んだ英文を完成させる。	56.2	エ 3	64.8		
ウ 2		意味が通るように語を並べかえて、動名詞の慣用表現を含んだ英文を完成させる。	56.2	ア 3	84.1		
ウ 2	対話の流れを理解して、空所に入る適切な英語を書く。	平均点 2.8	イ 3	76.6			
ウ 2	20語以上の英語で、自分の考えを書く。	平均点 2.8	ウ 3	57.0			
3	ア 3 イ 3 ウ 3	電話の応答を読み、空所に入る適切な英文を書く。	12.5	3	ア 3 イ 3 ウ 3	本文の内容と合うように、適切な語を選んで、英文の要約を完成させる。	5.8
			26.0				5.8
			26.6				
	A 2 B 2	電話の応答を読み、空所に入る適切な英文を選ぶ。	44.0				
	50.9						